

山行報告

■ゆめさきの森公園

〈女性委員会〉

- 日 程：1月15日（日）
- 参加者：A班L安田 SL島谷 泉 岡林 澤田(律) 敷田 松岡 村上
B班L木村 SL香川 江崎 岡田(淳) 北川 中村 松本(聡) 三木(知)
- 行動記録：駐車場9:00 発～最初のピーク(9:54 着)10:00 発～最高峰(10:56 着)11:20 発～ラクダの背道(11:30 着)～古墳の道(12:43 着)～弥勒寺(13:05 着)～駐車場(13:20 着)

◆ゆめさきの森山行に参加して

岡林

2023年の初登山に女性委員会のゆめさきの森公園の山行に参加しました。

昨年6月にあじさいが美しい弥勒寺を訪れたときに、ゆめさきの森公園を初めて知りました。周囲を散策したときに、いろいろな登山コースがありました。しかし、夏はヒルが多いと聞き、ヒルのいない季節に登ってみようと思っていた山でした。

一週間ほど前から、週末の天気は雨と予報が出ていたので、当日の天気が心配でした。初めての山歩き教室に参加して以来今までお天気に恵まれ、雨の経験がありません。雨の山行に何を準備すればよいのか、どんなことに気を付けて登山すればよいのか迷いました。

当日は幸い雨もあがり、曇天の空の下16名で出発しました。

1月とは思えないほど暖かく、登山開始後すぐに暑くなってきました。「冬は汗をかく前に服の調節をする」こまめに服装の調節をすることが大切だと教えていただきました。



今回は全山縦走コースで尾根道を全部歩くコースだったので、アップダウンの連続でした。足の負担を軽くするためには、登りと下りではストックの使い方を変えるといいなどアドバイスももらいました。

雨上がりでしたが、登山道はとても整備されていて歩きやすかったです。しかし、木の階段や所々にある粘土質のところは何回か滑りそうになりました。そのときも靴の裏についた泥をちゃんととって歩くようにするといいと教えてもらいました。

弥勒寺でお参りをし、大きさが日本一の布袋さんにお会いして、駐車場に戻ってきました。ストレッチをしようとしたときに、雨が降り出しました。みんなの行いがいいからだ感謝し登山を終えました。

今年の初登山は、知らなかったことをたくさん教えていただきました。様々な天候での登山を経験するこ

とも大切だと実感しました。

年末年始の運動不足（私だけかも？）を考えてゆっくりと登山をしてくださったので、助かりました。久しぶりに皆さんとおしゃべりをしながら、しっかりからだを動かすことができ、とても気持ちよかったです。

お世話をしてくださったリーダー、サブリーダーの皆様、ありがとうございました。

◆ゆっくり登れたゆめさきの森公園

江崎

会報誌「高御位」に毎月掲載されている山行案内の中から、自分に登れそうな山はどれだろう？と探してみる。パッと見ただけでは、どの辺りの山なのか私にはサッパリわからない。コースやデータ、アクセス等を考え自分なりに選んでみる。

今回決めたのは、女性委員会山行「ゆめさきの森公園」。ここは以前、孫達を連れて行った事があり、友人と少しだけ登った事もあった。でも今回は沢山あるコースの中でも一番長い尾根全周、距離にして約7kmのコースだ。

当日は心配していた雨も止んで、スッキリとは言えないが風も無く穏やかな曇り空で、山登りにはちょうど良かったのかなと思う。山道は県立公園だけあって、急な上りなど至る所に階段がきちんと整備されており、安心して登る事が出来る。

今回は長い尾根歩きで小さなピークも沢山あり、アップダウンが



続いていて休憩回数が多かったのと、急な登りでもゆっくりのペースで登る事が出来たので、少し楽だったように思う。とにかく一番長いコースを歩いたという満足感でいっぱいでした。それともう一つ、今回の登山には昨年受講した「初めての山歩き教室」の終了山行、氷ノ山登山以来、久しぶりにお会いした友人の顔もあり、個人的に励まされるような楽しい登山になりました。

美味しいお菓子の差し入れを頂いたり、コースを考えて連れて行って頂いたり、皆様に感謝です。ありがとうございました。

■夕陽ヶ山

●日 程：1月15日（日）

●参加者：L藤本 SL春本 生永 尾越 小田 乙坂 垣内 佐野 高島 田中(重) 森下 山下 山本(清)

●行動記録：古法華自然公園 9:15 発～笠松西尾根(9:25 着)～笠松山(10:55 着) 11:10 発～古法華寺(昼食) (11:30 着) 11:55 発～馬の背尾根(12:10 着) 12:15 発～峠(12:35 着)～夕陽ヶ山(14:15 着) 14:30 発～古法華自然公園(15:15 着)

◆夕陽ヶ山山行に参加して

田中(重)

山行日は天候が気になる・・・予報では曇り。

昨夜からの雨も上がり曇り空、東の空には微かに薄日が差している。

参加者13名が揃ってリーダーから行程説明と役割分担の確認後、ストレッチで身体をほぐし春本SLの先導で9時15分頃スタート・・・古法華自然公園駐車場から道なき道を藪漕ぎ笠松西尾根に出る。

笠松山までの稜線歩きもアップダウンの連続で途中大きな岩を超えるのに一苦労しながら11時頃に笠松山展望台到着。

小休憩して、ここからは歩きなれた山道を古法華寺に向かう。

ここは石仏工房のアトリエがあるところで、ランチ休憩を取りトイレ設備もあるので後半に向けての準備をした。

いきなりの急登を経て善防山の手前から西に折れ馬の背をわき目に急な岩場で集合写真を撮った後、峠まで下りここから夕陽ヶ山へは稜線歩きだが七つ程の峰のアップダウンで足元を確認しながら気の抜けない、普通なら邪魔な切り株も滑り止め足場にしながら藪漕ぎが続く、・・・それでも午前中に挑んだ笠松山、振り返れば善防山、Uの字の稜線をたどってきたのが見て取れる。

目前に富士山のような三角錐の夕陽ヶ山を見たときはホットしました。

猫の額ほどの狭い山頂で最後の小休憩を取り、最後の急下り足首が疲れているので慎重に慎重に無事麓に・・・最初から最後まで気の抜けない山行でした。藤本L、皆さまお世話になりました。ありがとうございました。



■星田連山と星のブランコ（大阪府）

<ゆっくらリズム>

- 日 程：1月22日（日）
- 参加者：A班L藤原(千) SL橋本(万) 生永 泉 臼井 岡田(郁)
B班L澤田(律) SL乙坂 木村 佐野 敷田 田中(浩) 土井
C班L小田 SL春本 立花 中村 松田 松本(聡) 吉村
- 行動記録：星田駅9：20 発～石橋山10：15 発～大谷山11：05 発～やまびこ広場(11：25 着・昼食)12：05 発～展望台(12：10 着)12：20 発～星のブランコ(12：30 着)12：45 発～ピトンの小屋(13：00 着)13：15 発～私市駅(14：05 着)

◆行って見たかった吊り橋 星のブランコ

岡田(郁)

JR星田駅から歩き始め、住宅街を抜けると山が見えてきました。

石橋山を登り、抜谷嶺と宗円山の間地点に「宗円ころり」と言われる斜面があります。下から見ると凄く急な斜面でした。「登れるかな？」とっていると、リーダーの提案でロープを張ってもらえることになりホッとしました。無事宗円ころりを登り、南宗円山、大谷山を登りやまびこ広場でお昼休憩を取りました。

展望デッキに到着。天気が良かったので京都、枚方方面が眺望でき、実家のある枚方パークの観覧車が見えました。紅葉や桜の時期に、綺麗な景色を見にもう一度来たいと思いました。来たかった吊り橋 星のブランコ！高所恐怖症の私は、思ってたとおりスリル満点な吊り橋でした！

ピトンの小屋は、案内所や休憩室になっていてソフトクリームなどがいただけるようになっています。なんとといってもクライミングウォールがそびえ立っていました。計画を立ててくださったリーダー、メンバーの皆さんありがとうございました。楽しかったです！



◆ゆっくりズム星田連山と星のブランコに参加して

田中(浩)

午前9時10分にJR星田駅に到着。総勢20名。3班に分かれての山行となる。駅前の温度計は6℃を示していたが、快晴の天候でもあり寒さはあまり感じなかった。

市街地を抜けて登山口に向かう。登山口でストレッチをして登る。最初に急登がある。石橋山、抜谷嶺を過ぎ宗円山の手前で急登があり、春本さんが細引を張ってくれた。ロープを頼りに登ったがなかなかきつい坂である。ここは別名「宗円ころり」とも言うそうだ。南宗円山、大谷山を越えほしだ園地に入る。ハンバーガーストーンという巨石を探しながら歩いたが見つからず。道の上にそれらしい岩があったが確認は出来なかった。やまびこ広場で休憩、昼食を取る。府民の自然公園らしく結構人が多い。子供連れの親子や犬の散歩の人が目につく。

昼食後展望台に行く。大阪市街や京都まで遠望できる絶景であった。展望台の右下には全国屈指の吊り橋「星のブランコ」が偉容を誇っていた。さて、いよいよ本日の山行の目玉である吊り橋に向かう。全長280m高さ50m。がっちりした作りである。渡り始めはそうでもなかったが、中央付近に行くときゅっさゅっさと揺れていた。眼下に川は無かったが道があり人が通っていた。吊り橋をバックに記念撮影。その後橋の下の道を通る。真上の橋を見上げるには首が痛い程の高さであった。ピトンの小屋で小休憩。ここにはクライミングウォールがあり、国体にも使われた本格施設

である。高さ16.5m。上付近は逆傾斜になっており圧倒される。その後山裾を歩いて帰路の駅に向かう。天気にも恵まれ、楽しい1日でした。ありがとうございました。



■蘇武岳（大糠コース）

<アルプ>

●日 程：1月22日（日）

●参加者：L竹内 SL須増 尾内 笹木

●行動記録：村岡ファームガーデン駐車場(8:30着)8:50発～登山口8:55発～5合目付近(10:02着)10:20発(アイゼン装着)～馬の背10:53発～蘇武岳(11:50着)12:25発～馬の背12:52発～5合目付近(13:13着)13:18発(アイゼン脱着)～登山口13:58発～村岡ファームガーデン駐車場(14:10着)

◆蘇武岳から冬の絶景を楽しむ

笹木

冬の蘇武岳、アルプに入って二度目の挑戦です。参加者は当初の6人から4人になり一台の車に乗り合わせて出発しました。今年はラッセルを頑張るぞ！と、積雪を期待していましたが、播但道の生野を過ぎても雪はなく、登山口の村岡ファームガーデン駐車場でも地面が見えていました。

ワカンとピッケルは車に残してスパッツを付け登山靴でスタートしました。2合目辺りでは2センチ程積もっていた雪が次第に深くなり、5合目辺りでアイゼンを装着しました。12本爪のアイゼンで雪の中を歩くのは初めてで、ワカンに比べると周径が小さいので足運びは楽でした。リーダーの足跡に自分の靴を重ねて一歩一歩ひたすら足元を見て登って行きます。7合目辺りから傾斜がきつくなり、ストックに力が入り肩が重たくなってきます。足の運びも乱れ、リーダーとの距離が開いてきました。この坂を越えたら楽になる、と期待して目の坂をやっと登ったら、さらに高い坂が目の前に。何度もそれを繰り返しているうちに、『なんでこんなしんどいことしてるんやろ』、ふつふつと自分の中に浮かんだ思いが膨らんで、思わず、後の0さんに「なんでこんなとこに来たんやろ」とこぼすと、0さんは「去年も同じこと言ってたよー」と一笑。そうだった、去年もこの辺りだった。。『それなのになんで又来たのよー』と、自分に問いかける。一息ついて立ち止まり、顔を挙げて後ろを振り返ると見事な冬景色が広がっていた。「もうすぐ分岐だ！」リーダーの声に元気を出してまた一歩一歩進む。去年はポールの先っぽしか見えていなかったカーブミラーが今年は太陽を反射して光っていた。分岐からいくつかの低いピークを越えたら山頂が見えた。「さんちょうへ」「ようこそ」の立木の改札を抜けて真っすぐ進む。山頂には標識が二本あった。去年は一本の頭しか見えなかったが、今年は周りの雪が飛ばされたのか、二本共ほぼ根元から確認でき、加藤文太郎と植村直己が愛した故郷の山と記されていた。

展望バツグン！見渡せばぐるり白銀の世界、白とグレーのコントラストで遠くの山々が墨絵のように静かに美しく連なっている。凜とした空気に包まれると、しばし時間が止まるようだった。

下山時、去年は自分のワカンを踏んずけて三回も転んだけれど、今年はアイゼンで軽快に下山。降雪にも雨にも遭わず、風も穏やかで、山は静かで、絶好の冬山登山でした。同行の皆様、お世話になりました。



■高森ボランティアの報告

荘所

- 日 程：1月21日(土)
- 参加者：内海 佐々木 島本 砂川(延) 春本 森下 森本
- 集合場所：旧アクア交流館前駐車場・午前9時

当日は旧アクア交流館前の駐車場に集合する。作業場所は旧アクア交流館東側から平荘湖東の堤防を渡り、平荘湖側から上がる嶽山への登山口からの登山道の草刈り作業を行った。

■観瀾處伐採作業報告

【観瀾處とは高砂市竜山・加茂山の中腹にある巨岩に「波が見える眺望の地」という意味の3文字「観」「瀾」「處」が刻まれた、左右10m・上下4mの碑石】

報告：森本

2月4日に観瀾處前の樹木の伐採を行いました。総勢20名（高御位山遊会：3名（内海、春本、森本）、教育委員会：2名、加茂神社役員：10名、石の宝殿研究会：2名、歴史研究ガイドクラブ：3名）の参加でした。切っ掛けは、荒井中学校のトライやる等で観瀾處を訪れた際に樹木が繁茂して非常に景観が悪く、2020年に教育委員会に高森ボランティアでの伐採を申し入れたことでした。国有林のため伐採には国の許可が必要であり、国・県・市の補助を得て周辺の整備と伐採を業者に依頼するとのことで、昨年2月に伐採が行われました。その後の枝払いを依頼され、今回の伐採作業となりました。瀬戸内海の眺望が抜群に良くなり、周辺からも石碑がよく見えるようになりました。

伐採の背景：

荒井中学校のトライやるウィーク等で観瀾處を訪れた際に樹木が繁茂して非常に景観が悪く、2020年に高砂市教育委員会に高森ボランティアで伐採を申し入れた。

教育委員会からは、①観瀾處一帯は国有林であり、木を伐採するには国の許可が必要である。②来年度に観瀾處や生石神社周辺の伐採や整備を行う計画である。③国に申請し、国・県・市から補助を受けて伐採事業を行う。④伐採後の枝払いのメンテナンスを高御位山遊会にお願いしたい。・・・以上の経過で伐採を行うことになった。

観瀾處の由来：

この三文字は、江戸後期の姫路藩士永根伍石（ごせき）の子、32歳で早逝した文峯（ぶんぼう）が19歳の時に書いた墨跡である。藩士が、息子の死を悼み、1836（天保7）年に藩の家老河合寸翁に相談。「藩主酒井侯が“眺望絶佳の地”として賞嘆しているこの地にふさわしい、として費用を出して刻させた」。

観瀾處周辺の竜山石の活用：

観瀾處周辺の竜山石は、御着の旧山陽道に架かっていた竜山石製の太鼓橋、天川橋として活用された。昭和47年の大水で橋桁が落下し、6年後に御着城址の姫路市東出張所裏に移築復元された。

旧山陽道に掛かる天川橋



御着城址に移設された天川橋

